

## R15c KUG カタログと SDSS 画像データとの照合

宮内良子（国立天文台），中嶋浩一（一橋大学）

KUG は“ Kiso Ultraviolet-Excess Galaxies” の略称で，東京大学木曾観測所のシュミット望遠鏡を用いた，紫外超過銀河のサーベイである．1984 年から 2006 年までのサーベイを集成した統合カタログは，2010 年に刊行されたが，これについては 2010 年の秋季年会で発表した．その後，このカタログと SDSS サーベイの画像データとを照合して種々の検討を行ったので，その結果について報告する．

SDSS 画像データは，現在 DR9 まで公表されており，これは SDSS SkyServer の Visual tools を利用して検索することができる．KUG と SDSS の天域は重ならない部分もあるが，DR9 までの天域で，KUG 9910 個の内 8913 個の銀河の画像が取得された．

この画像データを利用して，これまでに次のような解析を行った：

- 1) 取得した画像データをまとめて，web 上に画像カタログとして公開．
- 2) SDSS の座標に準拠して，各銀河の座標値を，大きくずれているものを修正．
- 3) KUG では銀河と判定したが，SDSS では単独の恒星や重星と判定されるものを調査．

結果は次のとおりである：

- 1) 画像カタログは <http://nk-kaken.jp/KUG/> に公開した．
- 2) 692 個の銀河について，座標値を修正した．
- 3) これまでに恒星のように見えるものを数十個ピックアップして調査したが，その内の 2 個はセイファート銀河であることが確認された．それ以外のものについては，判定が困難であるものも多く，さらに検討中である．